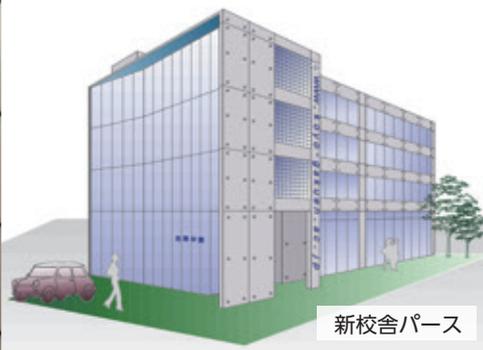


企業探訪



創立当初の校舎（建替予定）の前に立つ齋藤理事長



新校舎パース



本部外観

学校法人 晃陽学園

理事長 齋藤 行信氏

■学園概要

本部：茨城県古河市東 1-5-26

開校：平成 5 年 4 月

従業員：60 名

事業内容：専門学校運営

今月号の「企業探訪」は、古河市に本部を置く、学校法人 晃陽学園の理事長、齋藤行信氏にお話を伺いました。

同学園は、不況に強く、高い国家資格合格率を誇り、「食」と「医」のスペシャリストを長年輩出してきました。また、「大学進学も目指せる専門学校」としても名高く、専門技術を身につけたい学生の学び舎となっています。

同氏のお話から、「生活に密着した知識を地域に残していくこと」—これが、当学園に求められている役割の一つであると分かりました。学園全体の発展のために、先頭に立って全力で疾走する同氏の姿取材しました。

（インタビュー：平成 27 年 4 月 28 日）

学園を創立するに至った経緯をお聞かせください。

1冊の本との出会い

私は、昭和54年に日本大学農獣医学部を卒業し、その後の13年間、吉祥寺に本部を置く二葉栄養専門学校に広報担当として勤務しました。全国の高校に同専門学校の宣伝と進路説明会に出向く中で、私の人生を変える出来事がありました。

平成2年、長野県松本市にある塚原青雲高等学校（現 創造学園高等学校）の進路説明会に参加した時のことです。私が同高等学校を訪れた時、ある生徒は大声を發してエネルギー発散場所を求め、ある生徒は人と目を合わせることもできませ

ん。彼らに専門学校入学に関する説明をしても全く耳を貸してはくれず、私は途方に暮れてしまいました。

そこで、私は説明することをやめ、代わりに彼らの「夢」を語ってもらいました。すると「俺はコックになって、自分のお店を持ちたい」、「甲子園へ行き、プロ野球かノンプロに入りたい」と目を輝かせて語ってくれました。彼らと話した時間は、たった45分でしたが、私の心を動かすには十分な時間でした。そのすぐ後、同高等学校の進路部の教師に、先ほど出会った生徒達と彼らの夢を興奮しながら伝えました。すると先生は、私に1冊の本を手渡してくれました。

『煎り豆に花咲く』

いただいた本の内容は、不登校や退学者等の問題を抱えた学生を全国各地から引受け、子どもたちの未来のために再教育に励んだ教職員集団の“学校づくり”、“人づくり”の葛藤記録でした。「たとえ彼らが“煎り豆”であったとしても、十分な水と栄養と土による“滋養”を与え続ければ、もしかしたら芽が出て、花も咲くのでは…」という願いが込められた本の表題は『煎り豆に花咲く』でした。

私は常々、県立高校受験の足切り対象となってしまう古河市の中学生達の将来を案じていました。なぜなら、年々私立高校のレベルも向上し、足切りとなった生徒達は入学も難しく、卒業後そのまま非行に走ることも少なくないからです。私は、1冊の本との出会いによって「子供たちが夢を持つことができる場所を与えたい。また、専門

技術を身につけ、社会に参画することができる人間を育てる学校を作りたい」という明確な“夢”を持つことができました。

赤提灯の下で夢を追う日々

夢の実現に向け、私はまず“赤提灯”を掲げました。学校の設立資金を調達するため、古河市に焼き鳥店を開業したのです。仕事帰りに身を粉にして働き続けました。おかげで大変繁盛しました。

焼き鳥のタレで汚れたお札を洗って窓に貼付けては乾かす日々を送りました。そうした日常を数年間続けた結果、校舎として利用する建物の購入資金を貯めることができました。そしてその後、当時の勤務先であった二葉栄養専門学校に退職届を提出しました。平成4年3月のことでした。

当時の苦労や想いを忘れないために、今でも毎年学園祭において、焼き鳥屋を出店しています。来訪者からは、大変好評をいただいています。また、最初に購入した校舎は、使用から22年が経ったため、建替え（トップ写真）を予定しています。

晃陽学園の概要や特徴、学園拡大のプロセス等についてお聞かせください。

社会に活かせる技術を学ぶ場所

当学園には、古河市に学校法人 晃陽学園「晃陽看護栄養専門学校」、「晃陽学園高等学校」があります。姉妹校として、同市に「学校法人 盈科学園 EIKA美容専門学校」、「日本生物資源危機管理専門学校」、牛久市に「つくば栄養医療調理製菓専門学校」があります。

学園名の由来は、現在多くの校舎が建つ土地を代々守ってきた父・晃一の「晃」と、学校運営のノウハウを教えてくれた二葉栄養専門学校長の古屋陽三氏の「陽」、「生みの親」と「育ての親」の2文字から取りました。

平成4年3月に前勤務先に退職届を出した後、同年5月から学校法人認可申請の壮烈な作業が始まりました。そして1年後の平成5年、高等課程を設置した「晃陽調理師専門学校（現 晃陽看護栄養専門学校）」を開校しました。この学校は、東海大望星高等学校との連携により、卒業時に調理師免許と高校卒業の資格を同時に取得することができる県内初の技能連携校です。そして平成16年に私の“夢”であった高等学校の認可が下り、「晃陽学園高等学校」を開校しました。

就職に強く、大学進学も目指せる専門学校

当学園は、全学科において少人数の担任制を導入しており、きめ細やかな指導が魅力です。また「就職に強く」、「国家試験合格率の高いこと」も自慢です。さらに、日本大学国際関係学部並びに日本大学通信教育部と連携・協力校として提携しております。「大学進学も目指せる専門学校」となっています。

晃陽学園の建学の精神である「進徳専心」に対する想いをお聞かせください。

松下村塾から学ぶ教育の姿勢

吉田松陰が開校した「松下村塾」は、個人を認め、特質を伸ばし、夢を育てることを通して、偉大な人材を生み出したと言われています。ここでは、人を評価する際、知識の量ではなく、学問に向かう姿勢を大切にしていました。

その考えに共感した私は、松下村塾生に対する最上級の評価である「進徳専心」を進学の本質として決めました。「進徳」は、進んでよい心を持ち、高い人間性を養う、「専心」は、一つのことに集中するという意味です。私は、松下村塾から教育の姿勢を学び、教職員とともに学生一人ひとりの可能性を最大限に活かせる環境づくりを目指しています。

晃陽看護栄養専門学校の概要とそれぞれの学科についてお聞かせください。

当専門学校は、栄養士学科、調理師学科、製菓製パン衛生師学科、看護学科、救命救急学科を設けています。各科の具体的な内容は以下の通りです。

栄養士学科（2年制）

～命を『食』から支える栄養士～

当学科は、国家資格である栄養士免許の他、栄養教諭や製菓衛生師の受験資格を取得することができます。卒業後は、管理栄養士を目指し、日本大学専攻科食物栄養専攻を始めとする他大学へ編入学が優先的に可能です。



調理師学科（1年制）

～『食』で人々を幸せにする調理師～

当学科は、1年制の最短課程調理学科です。



当科では、今年から、ベトナム、台湾、上海等からの留学生の受入れを開始する予定です。彼らがこの学園で日本食の技術を身につけ、自国に戻って日本料理店を開き、“おもてなしの心”を世界に広めて欲しいと思っています。そのため、笠間や益子に足を運び、日本の素晴らしい器に触れる機会も設けたいと考えています。

製菓製パン衛生師学科（2年制）

～スイーツのスペシャリスト～

当学科は、県内で唯一の製菓衛生師養成施設です。年間で450種



類の洋菓子・細工菓子・製パン・和菓子づくりの技能を取得できます。卒業生は、お菓子職人やパン職人として現場で活躍し、お客様に美味しさと笑顔を届けています。

看護学科（3年制）

～患者様を笑顔で支え、真剣に向き合いたい～

当学科は、臨床経験豊富な教師陣によるきめ細やかな指導・サ



ポートにより、看護師の国家試験合格率は県内看護学校の中でもトップクラスです。昨年度の看護師試験の合格率は、97.2%を誇ります。

昨今、全国的に看護師不足や介護現場における力仕事等、医療の現場で活躍する人材が求められています。そのような現状を受け当学科では、社会ニーズに応えられる男性・女性看護師を多く育成しています。

また、「食」分野と連携し、「食べて治す」チーム医療（NST）を立ち上げ、臨床栄養実習等も行っています。今後の展望として、化粧品関係の企業との連携による「美と食」の研究等も考えています。

救急救命学科（2年制）

～救いたい命のために全力を注ぐ救命救急士～

国家資格である救急救命士は、救急車で病院に患者を搬送する



際、救急救命処置を行う事が仕事です。

独自の国家試験対策により、当学科の昨年度の国家試験合格率は100%を誇ります。講義は、東京消防庁・地方消防OBによる実践的な授業や実習を行います。また、学生がUターンした際、現地で病院や消防の実習ができるよう、関東・東北各地の病院との協力体制を整えています。今後は、ドクターヘリの操縦実習も考えています。

晃陽学園高等学校の概要と特徴についてお聞かせください。

学生に最大限の可能性を与える高等学校

地域には、どのような状況にあっても、高校の卒業資格を取得したいと願う学生がいます。彼らの願いを叶えるため、当校は、平成16年に単位制および通信制の学校として誕生しました。

コースは、食物調理・美容師・動物医療コースと、自分の自由な学習スタイルを選べる自由登校コースの4つに分かれています。また、広沢学園との連携によるプロゴルファー養成コースや食品加工生産・芸術コースを設けています。さらに、不登校や高校中退から大学進学を目指す特別選抜クラス「ラムサークルクラス」も新設し、学生の個性に合わせた新しい教育スタイルも実践しています。

地域との関わりについてお聞かせください。

生活に密着した知識を地域に残す

私は常に、「何が地域に必要なか」ということを考えています。当学園も時代のニーズに合う人材を育てるため、コースやカリキュラムの見直しや増設を行ってきました。

また私は、地域に必要なものは、「安心・安全」、そして「安定」であると思います。地域の消防や警察が動かないということは、平和であること、つまり「安定」している状態です。私は、当学園が地域の安定に寄与できる学校であり続けたいと

考えています。そして、「生活に密着した知識を地域に残していくこと」—これが当学園に求められている役割の1つであると考えています。

地域で行われている夜間パトロールや「火の用心」は、地域の高齢者が担っていることが多く、夜道で転倒して怪我をしてしまうという話も聞きます。そこで、姉妹校の生徒が、地域の警察や消防と連携し夜間パトロールを行うことを計画しています。これは、実習の一環です。このように、地域に根付いた活動に参加することで、自治体や地域との関わりをより密接にしていきたいと考えています。

また、働く女性を応援するために、0~2歳児の預かり保育「KOYOナースリーキッズ」を開設しています。地域で働く女性をはじめ、当学園に在籍する主婦の方が子どもを預けて安心して勉強できる環境を整えています。



KOYOナースリーキッズの内観

今後の展望についてお聞かせください。

学生が質を高める

私は、これから少子化社会に対応するため、学園全体の“質”を上げることが求められていると考えています。そのため、当学園の生徒には、以下の3つのことを徹底させています。

一 礼儀・礼節を知る

資格を取得しただけでは、プロとは言えません。礼儀・礼節は、全ての基本です。これが備わっていなければプロ中のプロにはなれないのです。

二 人情を知る

自分自身に誇りを持ち、社会で生きて行くための協調性を学んで欲しいと考えています。そして、多くの人と交わる中で、人情味のある人に育ってほしいと願っています。

三 仕事に“味”を出す

当学園では、「人間が生きること」にアプローチできる専門技術を学ぶことができます。自分の技術で、お客様に「ありがとう」、「助かった」、「美味しかった」と喜びと感動を与えられる人になり、社会で輝く存在となることを願っています。

何事も原点を忘れてはいけません。学生が自ら

「生きる力」を学び、それを社会に還元していくことが、学園全体の質を上げることになると思っています。

当学園で学んだ学生を世界に送り出す

松下村塾の門下生が日本全国へ飛び立ったように、この学園を卒業した生徒達が国際色豊かに広がり、各々がその場所で輝きを放つ存在となつてほしいと願っています。そして当学園の卒業生が海外に広がることは、同時に当学園の魅力を海外に発信することになると確信しています。

理事長ご自身の教育に対するお考えや座右の銘をお聞かせください。

学園発展のために全力で疾走する

学園も大きく成長しつつある今日、私個人の力には限りがあります。迷える生徒達に最高の環境を与えていくには、全職員や地域の方と連携が不可欠であると考えています。そして、当校の生徒に対して、「同じ1日はなく、日々は常に新しい。あなたには、新しい明日が待っている」と教育を通して伝えていきます。

私の座右の銘は、2つあります。1つは「春風駘蕩^{しゅんふうたいとう}」です。これは、“春風がそよそよと気持ちよく吹く様子を表したものです。人と会うときは、温和でのんびりとした気持ちで接するようにしています。もう1つは、「烈風苛烈^{れつふうかかれつ}」です。これは、“極めて激しい風”という意味で、仕事に対する姿勢を表しています。これからも学園全体の発展のために、先頭に立って激しい風と立ち向かいながら全力で疾走していきます。



齋藤理事長(左)と聞き手・藤咲耕一

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。貴学園の今後益々のご発展をご祈念いたします。